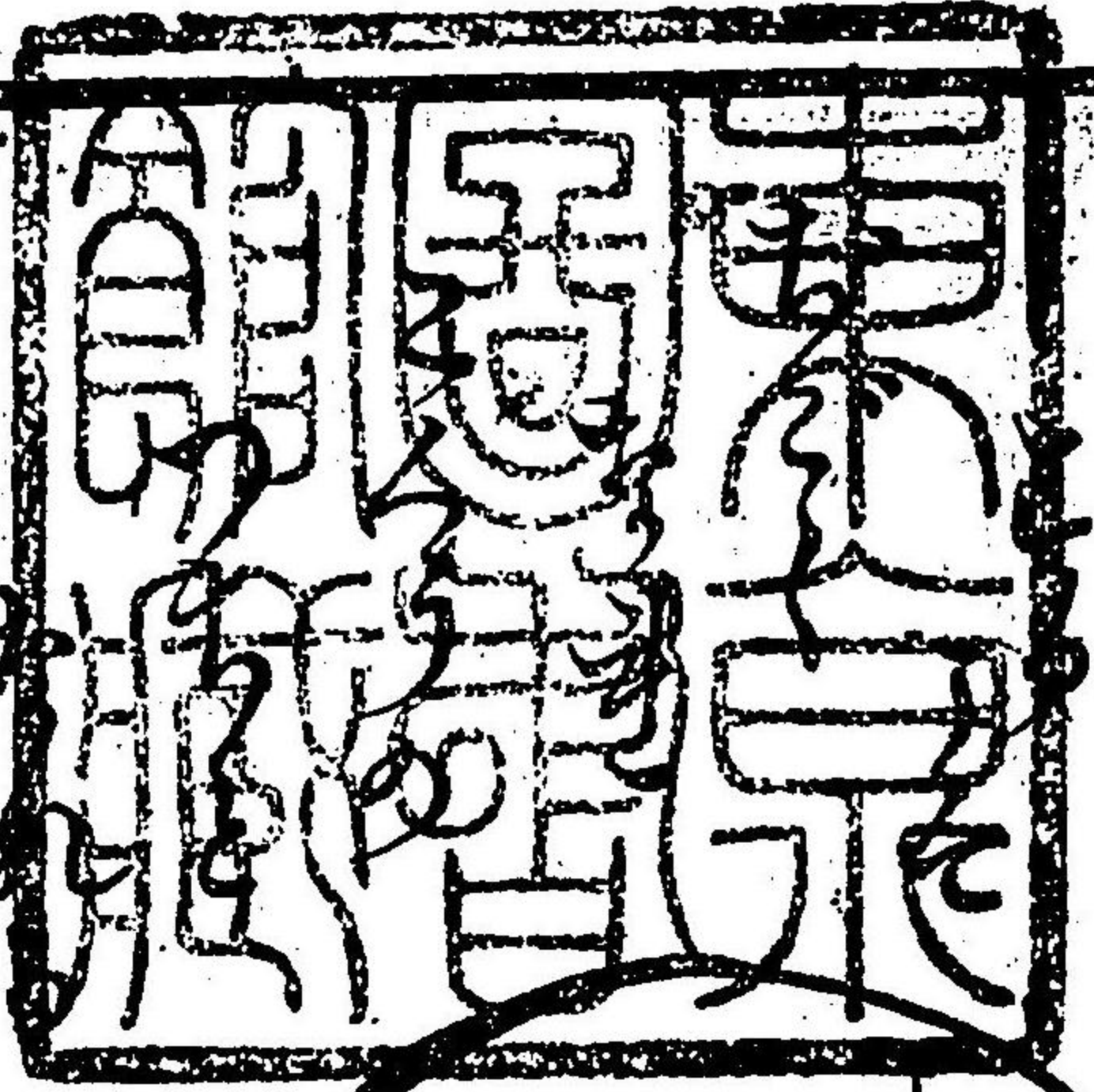


3

一休骸骨 完



明治十九年十月七日内務省交付の  
九年まで  
せん

その印



吉田 宗

るる

一 休 骸 骨

うすきみよかくたやづらうちよこそ、万法ばんぽうどもに見ゆるあるべし、それきよきん乃時座ときざ解げんをめぐらになはべし、もろく國士こくしにむされくるもの、一たひむなしや、あきらめとらふもあし、それわが身もいまだなり、天地國土てんちこくど本來ほんらい乃めんもくもいまだなり、みなあきこころより來きるあり、かたちなきゆへにすなり、ちあききを佛ぶつといふなり、佛ぶつ心共しんども、佛ぶつ心しんども、佛ぶつ祖そども、神かみどももろくの名なの、みきはあなたよりなづくるなり、かやうのとをきらすん、たちまち地獄にはいるなり、またよき人乃きめえによりて、二たひかへらざる、めいめいあやしくしやうれをかき、またしきもうちきも、るてん三界さんがいのいよくものうく心こころをしてこまやうをあしにまかせてうかきいで、いづくをすすともなくゆくや、きちぬ野原のほらにいりか、り、そともきゆる、隠かくしあるも、日ひもゆふもきよなりぬき、まはしかりぬるくもまくら、むきよたよりもなきま、に、あまたあなたを見まのせが、みちよりはるかひきいりて、山も近くさんまいぶるとおぼしくて、はか共とものかきあまたある中よ、まどのやかよあはれなるが、この世よ乃うしろよりたらしで、すはへ

世の中にあき風たちぬ花す、さやねかやゆか野へも山へも

いかよせん身をすみぞめの袖ならんむきしくすとそ人のまゝを

一切乃ものひとたびむきしやならせといふ事あるべからず、そむしやなるをはんぶん乃と  
ころへ歸るといふなり、かべにむかひて座するときんよりそをこるねん包みなま  
よあふせ、これ五十余年せりやうもみなまとにあらず、人のあゝろをまふんもへなり、か  
やうれく我志る人やあるとて、佛堂またちよりく一夜ををくるよ、後ねよりもあゝろほそく  
してうちぬるおとなかりける、わかづさがたよなりてすこしまとろみた我夢たうち、堂  
うしろへ立ちつぎり、あつこつおぬくむきいぞ、そのふるまひをのく、をなしからせ、た  
世もある人のごとし、あなふしき乃やと思ひて見るやとよ、あるがいて何ちかくあのみよ  
りていはく

思ひ出乃あるにもあらせすき行は夢とらとすれあぢきなの身や

佛法を神や母とけよわからあやこのみちにいかいゝるべき

まをしげよらき乃一すちかよふ母と野べ乃かぶねもよりに見おける

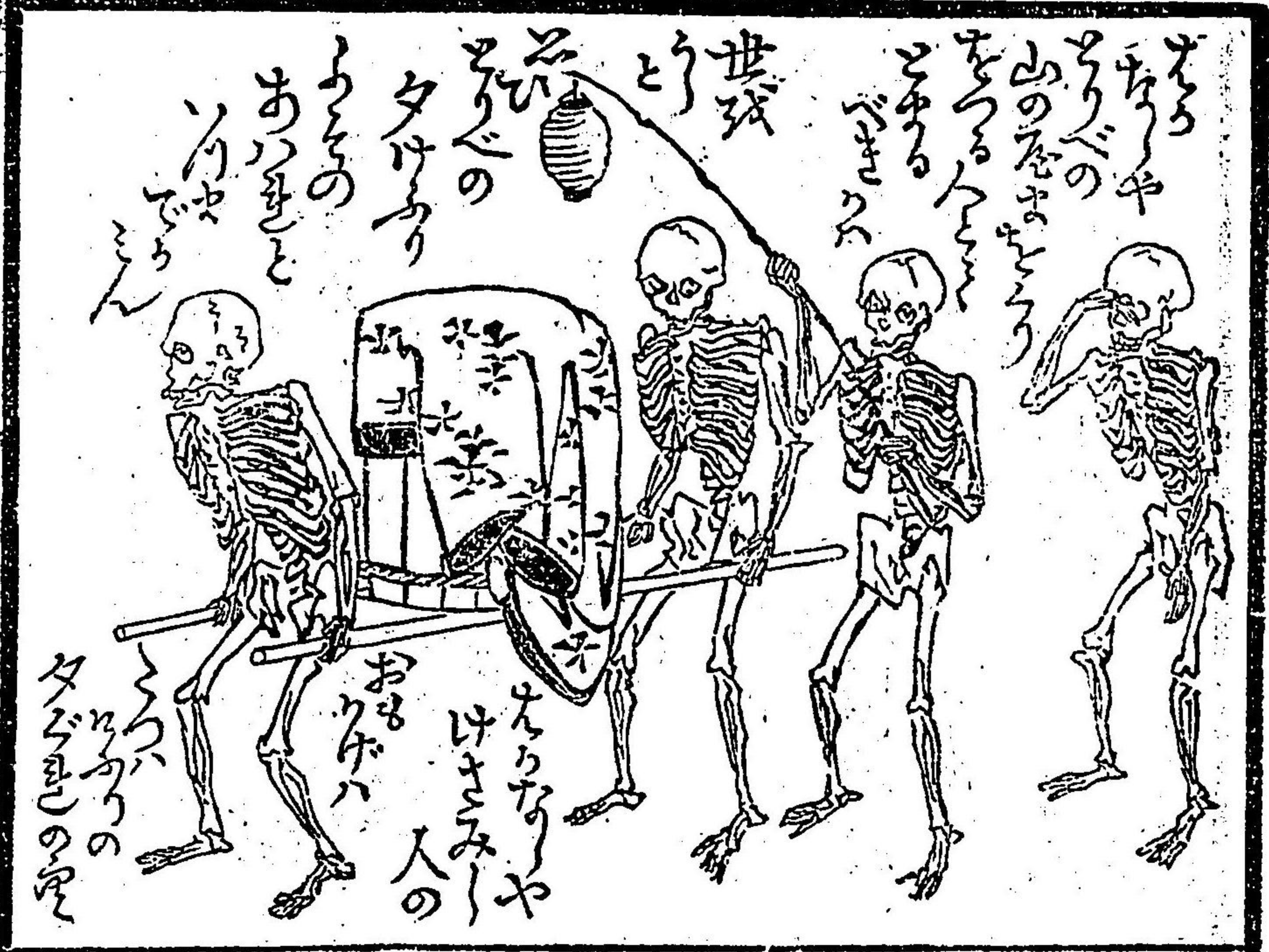
さぞまたしみよりてなせあそぶに、日比わき人逐だてける心もうせばて、まかむつねあ  
ひどもなひける、がいの世すて、法教もとむる心ありと、あまたたじかちをたづね、あま  
よりぬかさにいりぞ、わが心乃みなもと教、あまらむるに、耳にみてるものりまの風乃をぞ、  
まなこにまえざるものり、けい月のまくらににる、そもくしつぎ乃とまかゆめたうちよ  
のらざる、しつぎ乃人かがいむりにあらざるべし、それ我五しきのかりよつ、みて、もてあ  
つかふ母をこそ男女乃いろもあれ、いさたへ身のかりやふせぬればその色なし、上下乃すが  
たもわかた、たゞ今かしつぎもてあそぶかと下下に、このあつむりつ、見ぞうちたりと思  
るて、此ねんをよくくまうまんぞべしたつとまめらやしむおひたるもはかきもつらに  
かじりなした、一太のあんなをまめらむるもむりふせやうめつ乃とじりきるなり







井の邊に  
 石を  
 置きて  
 水を  
 汲む  
 人の  
 跡



世に  
 死す  
 人の  
 跡  
 あり  
 けり  
 山  
 の  
 邊  
 に  
 石  
 を  
 置  
 きて  
 水  
 を  
 汲  
 む  
 人  
 の  
 跡



墓  
 の  
 邊  
 に  
 石  
 を  
 置  
 きて  
 水  
 を  
 汲  
 む  
 人  
 の  
 跡



あ  
 の  
 山  
 の  
 邊  
 に  
 石  
 を  
 置  
 きて  
 水  
 を  
 汲  
 む  
 人  
 の  
 跡

世乃中此さ、めおとなるべし、けふこのおろしも、かやうのおへおき事あるべしとは、かねくまらずしてをどろく人のはかおさよと思ひく、わが身此あるべき哉と恐れけれり、ある人中されけるり、これどろりむかしよかはり寺てら教いでのしへの道みち心をこそ人ひとの寺てら入しがいまはみなてらをいづるなり、見ればをうせにちしきもなく、ざせんをもううく思ひくふうをさばして、道具たぐいをたしなみ、ざしきをかざり、がまんおほくしてた、おろをさきた教をみやうもんよしておろものきたるとも、たゞとりかへたるざいけあるべし、けさおろものきたりとも、おろものなはとなりて身をしりり、けさのくろかね乃まもくとなりて、身をうちさいなむと見へたり、ほらくしやじりんあ乃いとれとたづぬるよ、もの、い乃ちとあろしてのちどくにいり、もの教おしみてのがさとなり、もの教まらせしてのちくしやうとなり、とらをたて、とまゆうだうにおり、五戒ごがいをたもちての人にはむまれ、十せんをしやうじての天人よむまる此うへは四聖しようじやうありおれ教くのへ十かいといふこの一念ねん教見るにかたちもなしちうけんも住所ぢよしよなく、さらすつべき所もなし、大ぞくの雲乃ととし水みづのうへのあともなかり、たゞをこる所のねんもなきがゆへに、なす所此まほん方法もなし、念ねんと法ほふとひとりにして

むおしきあり、人こそ隠しんをまらぬなり、たとへの人乃ち、は、の火ひうちのごとし、かねのち、石のは、火の子なり、まき教やくそにたて、たき、あぶらのあんはくるとさきさゆるなりち、と、あひあそぶとき火乃いづるのよし、ち、は、もはじめあさがゆへよ、つゝおにの火のさゆる心にうするなり、むおしくこくうより一切のものをはごくみ、一切のものをいたは、一切乃いろをばあてて、やんぶんの田地てんぢといふなり、一切草木國土いっせきそくこくど乃いろのみなこくうよりいづるゆへに、かりのたとへやんぶん乃でんちといふなり

さくら木教くたきて見れり花もなし花をいはは乃そらそらもちくる

はしなくて雲くものうへおてあかほともぐん乃さやうをたのみがしそき

聖せい雲うん五十余年ごじゅうねんたせりやうをさ、て、このとし乃や、よまもさやうせんをすれば、ぐん乃さいでよ乃たまふやう、はじめよりをりよりいたはまで一字もとかずといひく、かへりて手づから花をさしあけさせたまふを、迦葉あせつかほかよらひしとさくおんのたさふやう、おまにまさしき法ほふ乃たはなは心ありとて、花たゆるしけるを、いかなるいはれこやとひけれが、くごん乃たまふやう、これ五十余年ごじゅうねんたせりやうのたごへりおまのものをさいだかんとするを



き、手乃うちよものありとをいひまいたくかごとし、わき五十余年のせ何海うり、これかせ  
 うをおねくがとし此也へよとらべんといふ、くどん今かせうはたへたまひし所の法、かの  
 おあさひものをいたさとりたほところあり、まかるにこの花の身をもてあしてまるべきよ  
 あらす、心よもあらせ、口にいひてもまるべからず、此身心教よく心えべし、ものまらたる人  
 とのいとるとも、佛法者といひふへからせ、此花の三世乃まよぶの乃世よいて、一乗乃法と  
 のこのはなるなり天ちくの二十八祖たうどの六祖よりこれかたはんぶんの田地よりやか  
 によのものなし、一さいのもののはじめなきもへに、大といふ、こくうより一さい乃ハしさ  
 をいだすなり、だいはるの花乃、なつあさふも草木乃いろもこくうよりなすなり、また四大  
 といふの土水火風乃なり、人よまを教えらす、いきのかせわた、かきるの火、身のうる  
 海ひこちけのあるの氷、これ教やさむうづみもすきつちになり、それもとじめなきかゆ  
 よどいおほものひと何もあし

あま事もみない何のりの世ありけり死ぬるといふもまことならねを

みなくまよひ乃おほこよりの、身のまね共たましむのまなぬの大なるあやまりあり、さと

る人乃とをよは、身もたねもひとりにまぬるといふ也、佛といふもこくうれむなり、天地國  
 土一切のやんぶん乃田地にかへるへし

一切經八万法をうちすて、此一まきに御心得候べし大安樂乃人に御成候へし

かさをくも夢乃うちなるまゐるしかなはめくのさらにとふ人もあし

明治十九年九月四日 繙刻御届  
同 年 月 廿三日 出版

骸一  
骨休  
繙刻出版人

大阪府平民

寺井與三郎

同府下東區北渡  
邊町四十四番地

019332-000-9

特46-150

一休骸骨

寺井 与三郎 / 刊

M19.9

ABG-0018

